

## 2009年5月双六黒部源流 山スキー報告書

- 日程 : 2009年5月3日(日)~5月6日(水)
- 参加者 : 和田穰二(149)リーダー、青景平昌(143)、笹川雅史(145)

鹿島クラブ(KC)の会員皆さんに、山小屋の夏への衣替え作業を呼びかけ、日中を通して山小屋の雪避屏の除去等の作業を終え、残りの連休を山スキーで楽しむ予定でした。

5月2日から3日に日付が変わる頃、1階は、旧友との出会いを祝って宴高く、2階まで議論が聞こえる。1階が静かになった1時30分頃、メンバーの青景さんが荷作り始めた。もう駄目だ！起きよう！。

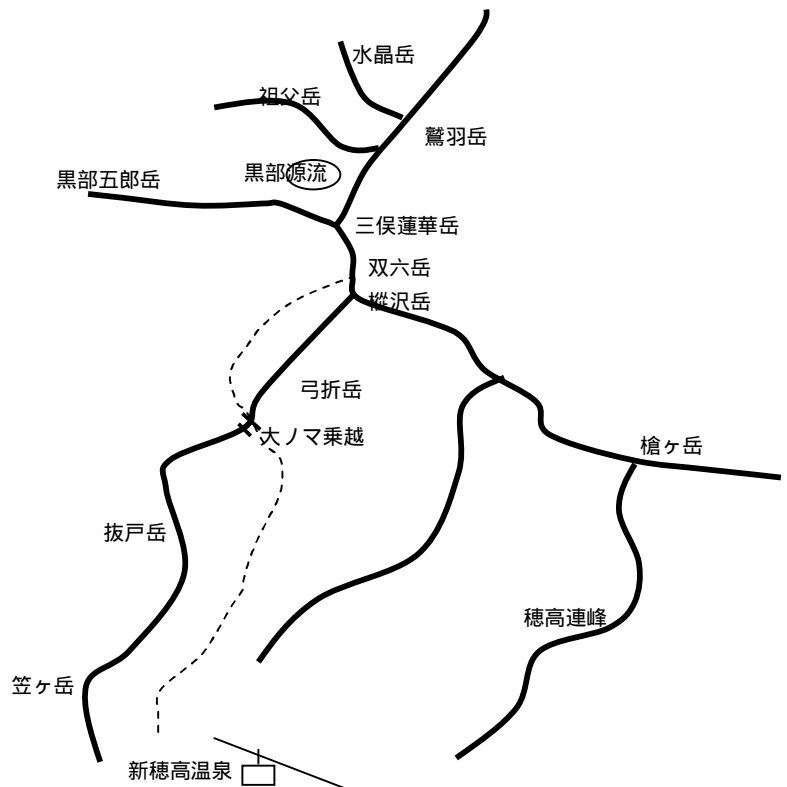
「KC2時発、4時新穂高着、明るくなったら登山開始」和田リーダーの言葉に、昨夜8時頃、2階で床について、寝よう！寝よう！と心掛けていたが、道路の渋滞で遅れた石田さん達の到着の様子、四国から横浜経由電車でKCに来られた窪田さんの到着の様子が床の中ですべて聞こえていた。

予定通り2時頃KCを出発し常念岳の麓をショートカットするアップルロードを通り、島々に出、安房トンネル(750円)を通過して、新穂高温泉の無料駐車場に着いた。明るくなるのを待って、登山の準備を始めた。

実は、3年前の5月連休に、双六黒部源流 山スキーを計画し、登山の初日にこのコースは、無理として引き返したことがあり、和田リーダーと笹川にとってリベンジである。

入山前のトレーニングは、通勤電車の中でのイメージトレーニングのみで、精神は肉体を改造すると期待していた。

新穂高温泉~大ノマ乗越を越えて、双六小屋までの案内書のコースタイムは10時間である。



### 5月3日(日)のコース・タイム

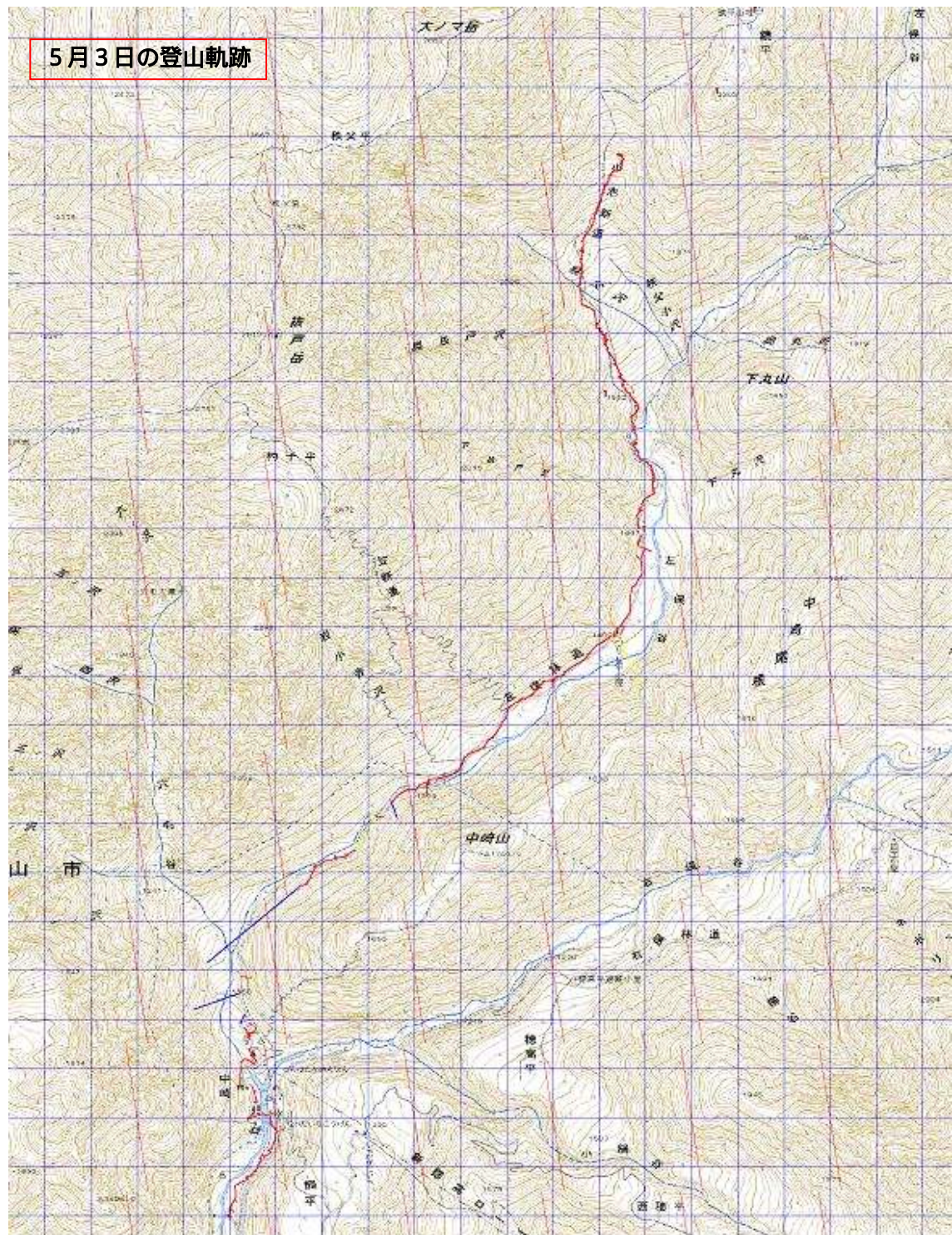
- 05:00 新穂駐車場発
- 08:30 ワサビ平小屋
- 10:15 橋
- 16:30 1950m キャンプ地

新穂温泉無料駐車場でスキーをザック横に取付けスキー靴で砂利道を歩いた。3年前は、駐車場から30分程度の所にある一般車の通行禁止ゲートから雪であったが、今年はまるで雪が残って無い。ワサビ平までに、雪崩跡のデブリを1回越して着いた。

ザックにスキー靴の付いたスキー板を取付けて運動靴で歩いていた青景さんは、ワサビ平小屋でスキー靴に履き替えた。雪崩跡のデブリを越えて、橋の所で砂利道が無くなり、スキー板にシールを付けて登攀することにした。



(小池新道の入口より弓折岳を望む)





(小池新道の登り)

シール登攀で足が前になくなった。ストックで雪を取上げ、口を濡らし、ヨイショと気合いを入れる。一步步くと左足に痙攣がくる。また、足が前になくなる。精神で肉体の改造ができなことの証明である。

3年前と同じである。笹川がブレーキとなり距離が伸びない。違うのはテントを持っているので、大ノマ乗越と鏡平の分岐あたり(1950m)でキャンプすることにした。



(焼岳と乗鞍を望む)

5月4日(月) のコース・タイム

05:15 1950m キャンプ地発

09:15 大ノマ乗越

11:30 双六谷出合

14:50 双六小屋

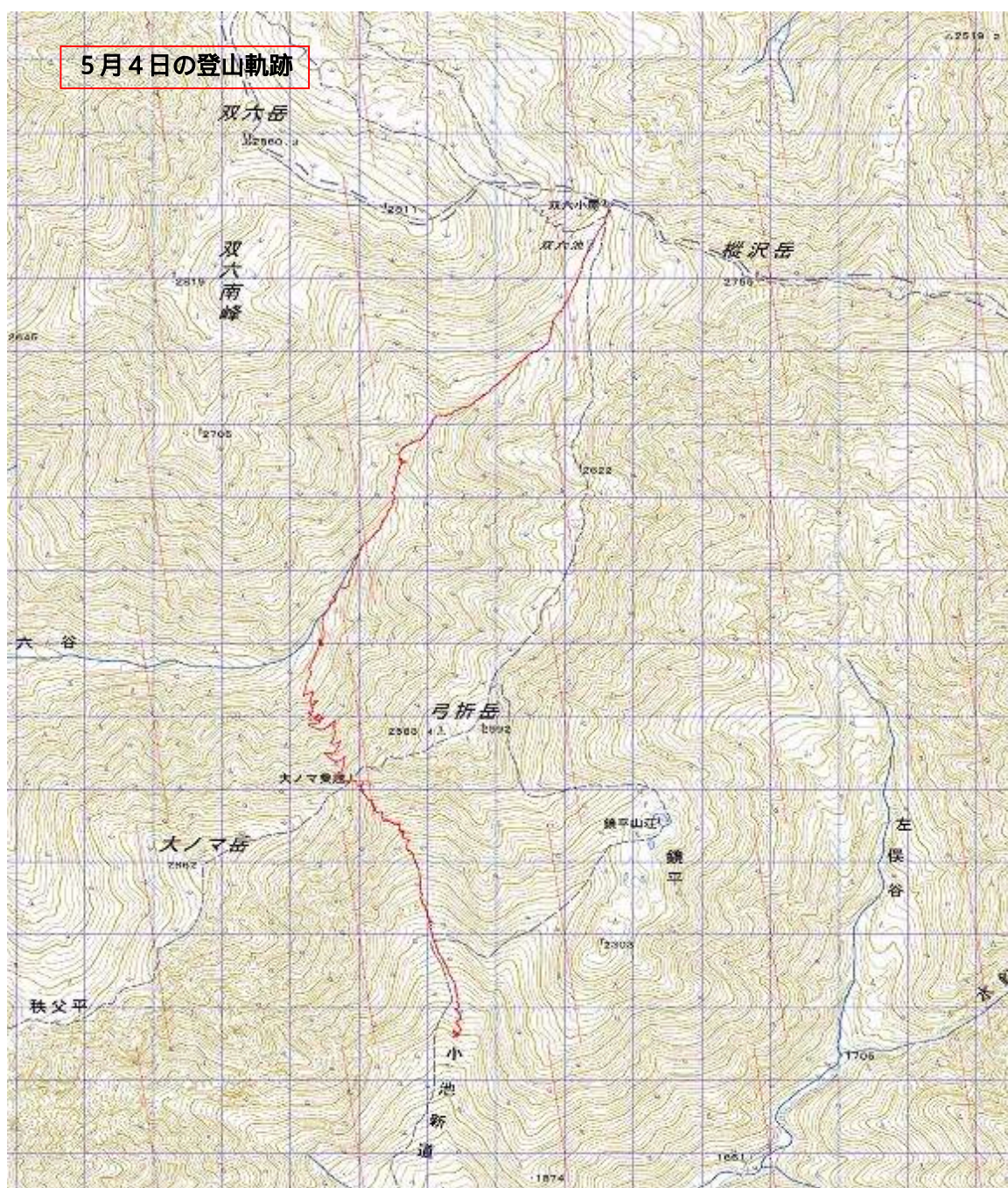
寝袋から起き上がると体全体が筋肉痛である。昨日の登攀が筋肉トレーニングをしたようである。



(大ノマ乗越への登り)



(大ノマ乗越の雪尻越え)



(大ノマ乗越から穂高の稜線)



大ノマ乗越でシールを外し、双六谷出合に向けスキー滑降である。斜滑行、キックターンであるが、キックターンの時、ザックの重さで後に転け、腐った雪と一緒に落ちる。キックターン毎に腹筋を鍛えている。



(大ノマ乗越の下りから双六沢を望む)



(双六沢を双六小屋に向う)

双六谷出合でシールを付け、緩やかな傾斜の谷底をシール登攀で双六小屋に着いた。



(双六小屋が見えてきた)



(双六小屋を風避けにテント設営)

5月5日(火)のコース・タイム

- 05:30 双六小屋発
- 06:15 樅沢出合
- 10:30 三俣蓮華小屋
- 11:15 黒部源流出合
- 12:45 三俣蓮華小屋
- 14:15 モミ沢出合
- 17:00 双六小屋

寝袋と予備食をテントに残して、非常用個人装備をザックに詰め、山スキーを楽しむ日である。ザックは入山時よりは軽いが、それなりに重い。ザックの重さで後ろに引かれる事はない。昨日の腹筋のトレーニングが効いたのかもしれない。

雪の表面が凍ったモミ沢を滑る。



(モミ沢の滑走)



(モミ沢のスノーブリッジ)



(モミ沢出合から湯俣川を遡る)



(縦沢出合より三俣山荘の方面を望む)

弥助沢から三俣山荘へは雪庇越えである。雪庇の下をトラバース中に、トップの和田さんは無し、笹川は2回、青景さんも1回落ちた。急斜面を雪と一緒に10m弱トラバースの体勢のまま落ちる。



(弥助沢の雪庇を越える)



(雪に埋もれる三俣山荘)



(三俣山荘より縦沢岳とモミ沢を望む)

三俣山荘より源流に向けて滑り、黒部川の源流に立った。夏はブッシュであろう。積雪期でないとこの場所には来ないであろう。一番馬力のある青景さんは岩苔乗越から祖父岳に登ろうと言う。賢明な我々は、ここで引き返すことにした。

三俣山荘で、三俣蓮華岳経由で稜線沿いに双六小屋に帰るか、午前中に通った弥助沢を滑りモミ沢を登って帰るか検討し、後者を選んだ。スキー登山では、稜線沿いに頂上を通っていくのを表街道とすると、沢を登り下りする裏街道を選択するのが王道らしい。



(弥助沢の滑走)



(モミ沢の登りから三俣山荘を望む)

## 5月6日(水)のコース・タイム

- 06:30 双六小屋発
- 07:40 大ノマ出合
- 09:30 大ノマ乗越
- 11:25 橋
- 12:00 ワサビ平小屋
- 13:45 新穂駐車場

昨夜7時過ぎから降り出した雪は、嵐になりテントの外は冬景色である。視界約5m弱、下山の日である。ザックの重さは入山時より少し軽い気がする。3日間の全身筋肉のトレーニングによるのかもしれない。

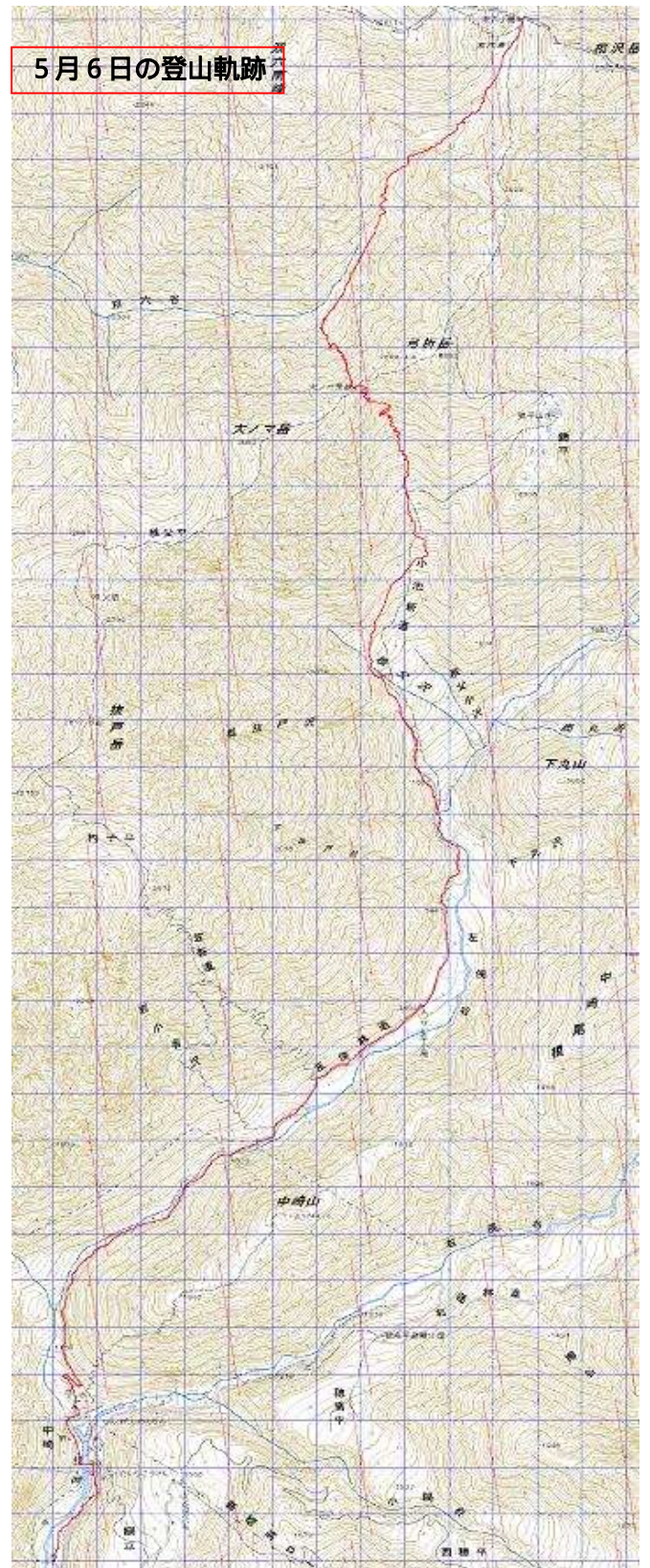


(双六沢の滑走)

双六谷を大ノマ乗越出合までスキーで滑る。出合から大ノマ乗越までの急な斜面はツボ足で登る。



(大ノマ乗越へのつぼ足で登攀)



大ノマ乗越から、大滑走である。雪は雨へと変わり、ザックが水を吸込み重くなる。スキー技術はもう一歩であるが、やはり楽しい。



(大ノマ乗越にて滑走準備)



(大ノマ乗越から滑走した沢)

橋の手前でスキーを脱ぎ、新穂高駐車場まで、下りの惰性で歩いた。車に登山具を入れ込み、吊り橋を渡って「深山荘」の内風呂(700円)に浸かった。



(林道を横断した下抜戸沢のデブリ)



(中崎橋付近を新穂高に向う)

(追記)

和田さんがGPS登山記録を作成し、青景さんが記録写真を提供しました。